

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2015年5月8日

報告書名：ジャパン・プラットフォーム 人道支援複数年事業 F4 事業終了報告書

平成25年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

2015年5月8日

事業名	初等教育改善事業4	
事業対象地	アフガニスタン国 カブール市 ナンガハル県	
事業期間	事業期間：2014年1月1日～2015年月1月15日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム アフガニスタン・パキスタン人道支援複数年事業(第4フェーズ)	
総支出・返還金	総支出：110,467,542円(返還額：40,012円)	
プロジェクト目標および、その達成度	<p>本事業の目的は、カブール市およびナンガハル州の「児童の学習環境を改善する」ことである。カブール市およびナンガハル州の教育状況は未だに劣悪である。カブール市の265校のうち103校には校舎がなく、112万人の就学児童・生徒のうち約43万人が屋外での学習を強いられている。またアフガニスタンでは教材・図書および教科書が不足し、暗記中心・教員中心といった古い教授法が一般的であるため、教育の質が低い。教育省は2014年までに全学校の60%に図書室を設置する政策を掲げているが、現時点では10%の学校しか図書室を有していない。アフガニスタンには現在72の公共図書館があるが、児童サービスを提供している図書館はほぼ皆無に等しい。</p> <p>1校の小学校において1棟20教室を建設したことにより、安全で快適な学習環境で学ぶ児童が30クラス、1,405名増えた。また、就学児童は213名増加した。1校に図書室を設置し、24校において図書活動が定着し、6校公共図書館において児童サービスが定着した。134名の児童に学校外教育の機会を提供した。</p>	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 1校で20教室が建設され、30クラス、1,405名が野外授業から解放され、教室で学習できるようになった。しかしいまだに教室が不足しており1,733名は屋外での学習を強いられている。「教室で学習する小学部のクラスが38クラス、児童数が1,775名増える」という計画時の目標は81%達成された。	受益者数 カブール市の1校の児童3,138名、教員74名。
	(2) 図書室改善活動 カブール市で1校で図書室が整備された。ひと月あたりの図書貸出数の平均値はナンガハル州の対象校20校については388冊(目標値に対する達成度35%)、カブール州・市の対象校4校については234冊(達成度21%)だった。公共図書館6館については、ひと月あたりの小学生児童の図書貸出数平均が81冊(達成度45%)、図書室利用者数が274名(達成度456%)であった。24校の9割以上にあたるのべ691名の教員が図書館活動に必要な知識、技能、	25校の児童32,561名、教員860名。

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2015年5月8日

報告書名：ジャパン・プラットフォーム 人道支援複数年事業 F4 事業終了報告書

	<p>態度を向上した（達成度 129%）。絵本 5 タイトルが再版され、74 校、6 公共図書館に配布された（達成度 100%）。以上のことから計画時の目標は、学校図書室の利用度（貸出冊数）に改善の余地があるものの他の目標は達成された。</p>	
	<p>(3) 子どもの学校外教育活動 子どもの学校外教育活動については、子ども図書館は年間に 232 日開館し、利用者数はのべ 31,128 人（1 日あたり 134 人）で、女子の割合は 46% だった。「1 日あたり 120 人の児童が学校外教育活動に参加している」という計画時の目標は 100% 達成された。</p>	ジャララバード市内の児童 120 名。
成果	<p>カブール市の 1 校の小学校において 1 棟 20 教室を建設したことにより、安全で快適な学習環境で学ぶ児童が 30 クラス、1,405 名増えた。また、就学児童は 213 名増加した。カブール市の 1 校に図書室を設置し、ナンガハル州およびカブール市の 24 校において図書活動が定着し、6 の公共図書館において児童サービスが定着した。134 名の児童に学校外教育の機会を提供した。</p> <p>3 つのコンポーネントの成果目標は概ね達成されていること、また校舎建設により、213 名就学児童が増加したことから、「児童の学習環境が改善される」という事業目的は達成されていると判断できる。</p> <p>校舎建設については、対象校には井戸がなかったのであるが、本事業を契機に住民が、対象校に井戸を建設した。また、本事業のターゲットグループは小学生児童であるが、対象校は高校であり、中学部、高校部の生徒も就学している。校舎建設によって、27 クラス、940 名の中学生・高校生が教室で学習できるようになったことは、本事業の想定されていたポジティブなインパクトである。</p> <p>図書室整備については、貸出冊数が比較的多い 2 校の児童の 4 年生時（プロジェクト開始前）の進級試験の成績の偏差値と同一児童の 5 年生時（プロジェクト開始後）の成績の偏差値の変化と児童の貸出冊数の関係について回帰分析を行ったところ、他の要因を制御したうえで、児童が 6 ヶ月間に 1 冊多く図書を読むとパシトゥー語の偏差値が 1.86 点上がる（1% レベルで統計的に有意）という推定結果が得られた。したがって、図書室の整備がもたらした読書習慣の向上は、学習達成度（教育の質）を改善することが明らかになった。</p> <p>子どもの学校外教育活動については、タラナ（詩）の朗読、自分たちで作り演出した劇の公演、裁縫・工作・絵画教室などの文化活動は、女子のエンパワメントに寄与していると考えられ、家の外を自由に歩けなくなる年齢に達する前に女子が自信をつけることは成人になってから役立つものと考えられる。</p>	
課題と教訓、提言	<p>学校建設活動に関して、学びとしては、維持管理ワークショップは、新学期に入ってから実施した方が効果的であることを確認したことがあげられる。</p> <p>学校図書館改善活動に関して、これまで学校図書館の利用者数を毎月当会スタッフおよび教育局職員によるモニタリングの際、データ収集してきたが、図書館</p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2015年5月8日

報告書名：ジャパン・プラットフォーム 人道支援複数年事業 F4 事業終了報告書

	員はこのデータを正確に把握、記録できていないケースが多いことが明らかになった。図書貸出数によって図書館の利用度を測定、把握することが可能なので、今後は、図書貸出数データのみモニタリグの際、収集することとした。
--	--